

市内景気動向調査結果

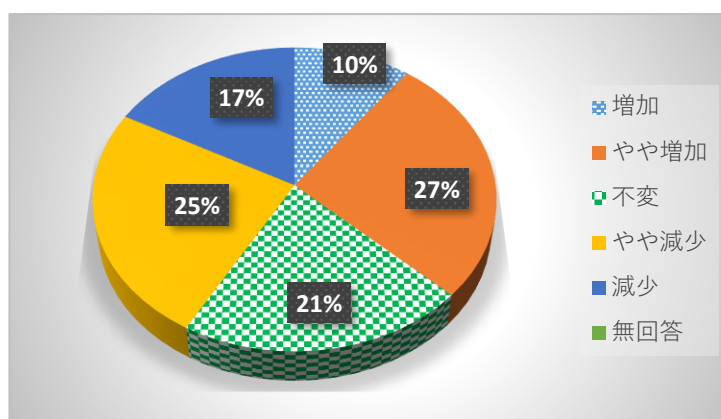
この調査は、第2四半期（本年7月から9月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
146	37	25	11	23	39	11

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業、

1. 売上高はどう変化したか。

増加	15
やや増加	39
不変	31
やや減少	36
減少	25
無回答	
合計	146

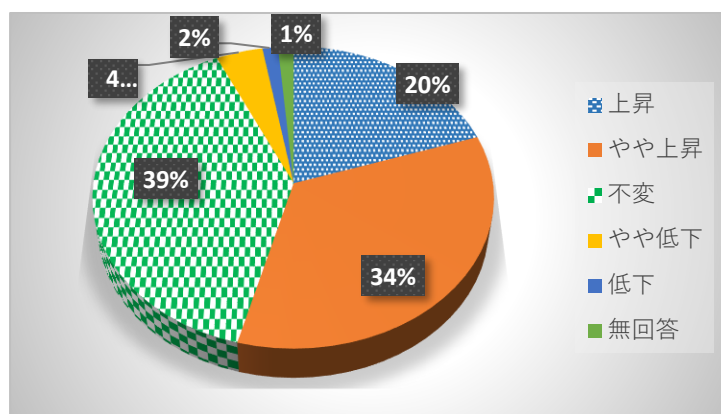


【コメント】

- 増加・やや増加が37.0%、不変が21.2%、やや減少・減少が41.8%であった。前期は、増加・やや増加が35.4%、不変が22.9%、やや減少・減少が41.8%であったので、ほぼ同様の状況にある。
- 増加・やや増加の業種割合は、運輸業が63.6%、サービス業が43.6%、製造業が40.0%、建設業が35.1%、卸小売業が17.4%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、飲食業が75%、卸小売業が65.2%、製造業が44.0%、サービス業が33.3%、建設業が32.4%、運輸業が27.3%であった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	29
やや上昇	50
不変	57
やや低下	6
低下	2
無回答	2
合計	146

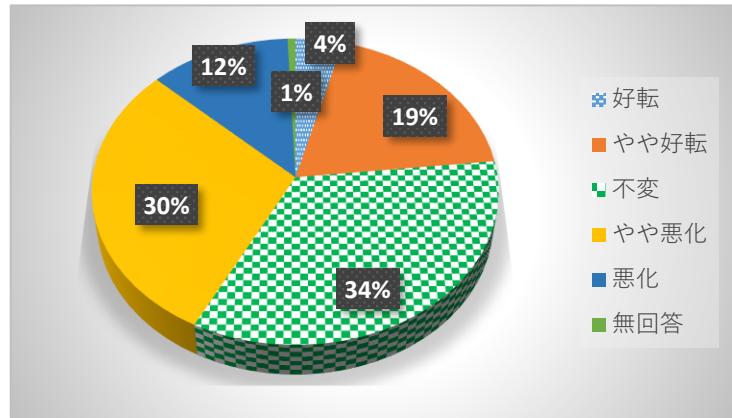


【コメント】

- 上昇・やや上昇が54.1%、不変が39.0%、やや低下・低下が5.5%であった。前期では、上昇・やや上昇が45.8%、不変が45.1%、やや減少・減少が6.9%であった。前期に比べても原料等の値上がりが顕著であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が68.0%、建設業が59.5%、その他が54.5%、サービス業が51.3%、卸小売業が43.5%、運輸業が36.4%であった。

3. 採算について

好転	6
やや好転	28
不変	50
やや悪化	43
悪化	18
無回答	1
合計	146

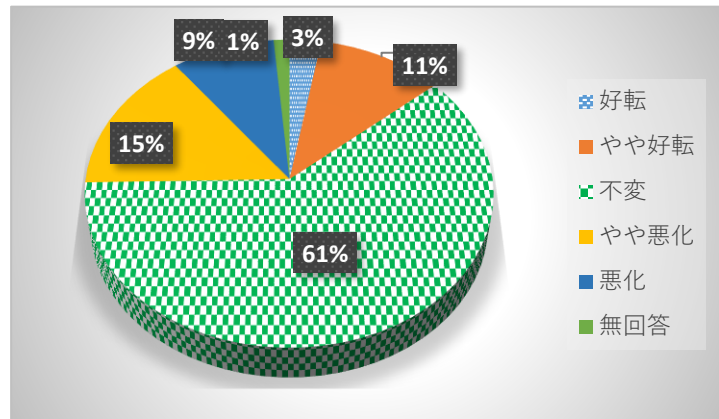


【コメント】

- 好転・やや好転が23.3%、不変が34.2%、やや悪化・悪化が41.8%であった。前期の好転・やや好転が19.4%、不変が37.5%、やや悪化・悪化が43.1%で
- やや悪化・悪化の業種別割合は、製造業が52.0%、卸小売業が47.8%、サービス業が38.5%、その他36.4%、建設業が32.4%、運輸業が27.3%であった。

4. 資金繰りについて

好転	4
やや好転	16
不変	89
やや悪化	22
悪化	13
無回答	2
合計	146

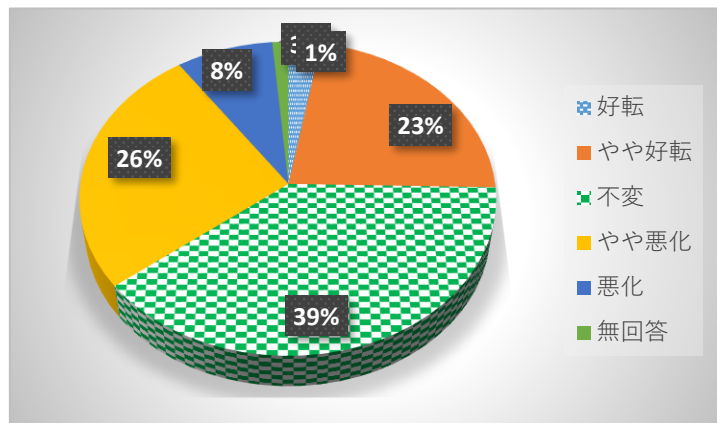


【コメント】

- 好転・やや好転は13.7%、不変が61.0%、やや悪化・悪化が24.0%であった。前期の好転・やや好転が12.5%、不変が62.5%、やや悪化・悪化が25.0%であった。仕入単価等の上昇が影響した。
- 資金繰り悪化の割合が高い業種では、卸小売業が47.8%、運輸業が36.4%、サービス業が23.1%で、卸小売業と運輸業の悪化が著しくなっている。

5. 業況について

好転	4
やや好転	33
不変	57
やや悪化	38
悪化	12
無回答	2
合計	146

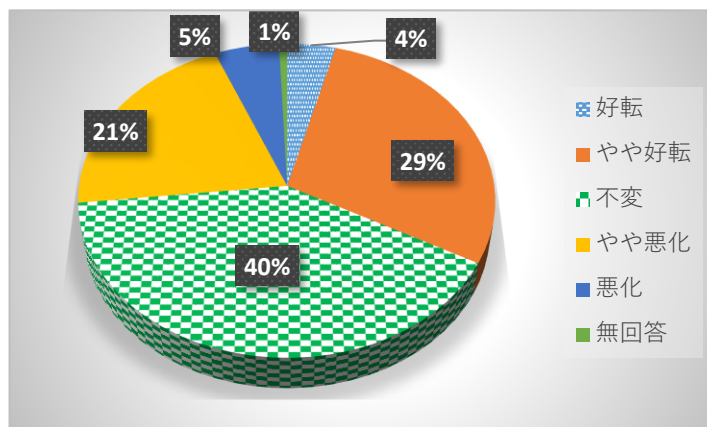


【コメント】

- 好転・やや好転は25.3%、不変が39.0%、やや悪化・悪化が34.2%であった。前期は、好転・やや好転が19.4%、不変が41.0%、やや悪化・悪化が39.6%で、若干の改善傾向にある。
- 業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が47.8%、その他が45.5%、サービス業が35.9%、製造業が32.0%であった。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	6
やや好転	42
不変	59
やや悪化	30
悪化	8
無回答	1
合計	146



【コメント】

- 好転・やや好転が32.9%、不変が40.4%、やや悪化・悪化が26.0%で、前期では、好転・やや好転が29.2%、不変が50.0%、やや悪化・悪化が20.1%であった。
- やや悪化・悪化を予想する割合が、好転・やや好転を上回っており、新型コロナの直接原因もあるが、資材等の高騰で先行き不透明になっている。

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- コロナの影響は、ほとんどありません
- 電線類が特に上昇している所以在庫しておくか適宜見積を取る等しないと逆ざやとなり注意が必要。市の電気工事が少なく売上確保が厳しい状況です
- お客様の動きが鈍い
- 得意先の営業不振、選挙の影響、コロナの影響はなし
- 道内の民間企業発注が、まだ回復していないようです
- 前半はコロナの影響があったと思いますが、後半はアスベストの件が法改正により影響が出たかと思います
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外のサプライヤにおいて生産支障が発生し、一部の住設機器に生産の遅れがあり営業活動に影響が出ています
- コロナの影響で資材仕入の高騰や現場の未着工事等で業績が良くないです
- 建設業なので短期間の景気動向は表現しづらい
- 現場がひとつ終わったから。コロナの影響で待機期間があっただけで次の現場に入らず、2週間仕事ができなかった
- 11月以降閑散期を迎えるため、売上DOWNと予想しています
- 特にコロナの影響はありません
- ボールパーク関連で一時的なもの。2年後以降は不安である
- 前年同時期が売上が特に多かったため。今時期は減少となりました。資金繰り等に関しては、今季前半での積み上げがあるので、業況は不変としました。コロナの影響は全くありません
- 今年は雪害で倒れた倉庫等の受注があったり、数年前に応急処置をしていた住宅の修復工事の受注があっただけで今月くらいまで続きましたが、この後の工事は減ってしま

うので、やや悪化すると思っています

- 受注高の変化はありません
- コロナの影響はないと思われま
- 特に変化はありません
- 慢性的な人員不足は未だに続いています。冬期間の工事施工に不安があります

【製造業】

- 昨年の秋口以降、世界的な鉄鋼商品不足に陥り、当社（北海道地区）への影響は本年に入ってからとなったものの、春からは欠品が生じるなど深刻な品不足の改善の兆しは見られず今なお続いている。高炉メーカー主導による過去に前例のない劇的な大幅値上げが継続しているが、品不足ゆえに競合することがないことにより、これが幸いし利を乗せた商いに繋がり、販売数量は物足りなさはあるものの業況は悪くない。しかし先行き不透明な状況に変わりではなく細心の注意を払って対応しなければならない
- 新型コロナウイルスの間接的な影響により、主力の風邪薬は需要が落ち込んでいたが回復の兆しは見えつつある。しかし今後の感染状況により業況は不安定さを抱えている
- 前年はコロナの影響で顧客の設備投資計画が中止、延期、凍結となり業績が低迷した。今期に入って当該設備工事が再び商談ベースにあがり、売上増収となっている
- 新聞折込広告などによるもの
- 資材不足、資材高騰、人手不足による人件費高騰、諸経費の増、冬期受注減少など経営を圧迫
- 原油価格上昇による原価アップ分を取り切れない
- コロナウイルス感染拡大が収束しきらず、観光や飲食店での消費が落ちている影響と巣ごもり需要が落ち着いてしまったため、状況は変わらず良くありません
- 人手不足により受注機会を失うケースが多い。コロナの影響は今後出てくると思われる
- コロナ禍による経済活動の縮小は、緊急事態宣言の発令とその延長により依然として続いており、下げ止まる気配は薄い。コロナワクチンの接種拡大による経済活動の復活を期待する
- 昨年の同期と比較すると、やや好転しているが、コロナ以前と比較すると15%~20%程度のマイナス状況である。好転しそうなタイミングで第5波が大きな不安要素となり、なかなか売上が回復しない。陽性者数が大幅に減少した今後に期待している
- 特段の変化なし
- 飲食店の回復が見込めない中で当面回復の方向が当方としても見込めない
- コロナ禍で増産した結果、市場が飽和状態となり販売が減少、在庫過多のため減産を強いられています。ただ、ここに来て在庫が適正になったことから、今後は好転に向かっていくと思われま
- 最少人員体制のため工事量に限度がある

【運輸業】

- 10月から最低賃金が上がり、人件費増が見込まれます
- 7月、8月はやや好転でしたが、9月は前年のマイナス50%と悪化。今後の見通しも期待できない
- ワクチン普及などにより感染者数は抑制されたと思います。従ってサービス消費を中心に個人消費は回復を見込めると考えます。ただ10~12月はまだ人出が感染拡大前の水準には達していないと考えます
- このまま不変で続くと思う

- 衣料品が主体の業務のため、量販店衣料の回復が遅れている。業態の転換を図っているところです
- 新規、定期案件の稼働が始まるため
- 本年度と前年の比較についての問でしたので、不変と回答しましたが、一昨年コロナが始まってからは昨年度とともに今年も最悪の状況になっています。94%売上減です

【卸小売業】

- 蜂蜜の販売が店舗だけになってしまうと売上にかなり影響が出てしまう
- 昨年までの営業が良い方向に行ったから。今後は上半期の営業不足をいかに挽回するかで来期以降の業況が決まる。新型コロナのせいにばかりしてはいけない
- コロナの影響も少し落ち着いてきていそう。10月は少し好転している
- イベント、集客等の折込の皆無により厳しいです
- コロナで売上悪化の中、最低賃金の上昇もあり厳しい。ガソリン代の高騰も痛い
- 新型コロナの影響はありません。事業の認知度が増してきたのではないかと思います
- 10月からのタバコの値上げに備えての買いだめがあったため、9月は売上は良かったですが、その分10月になってから低迷しています。今年の年末はコロナもこのまま落ち着いて通常に戻ってくれればと願っています
- 飲食業でなく良かったと思います
- 薬の相談も短時間にしており、じっくりした接客が少なくなる。定期的に来店していた客が間があくようになってきた。消毒薬（コロナ対策）や清浄機等の出費が増す
- 売上高については、業者向け商品動向が昨年より増加。特にウッドショックの影響により木材は好調ではあるが商品供給が課題である。飲食店関係では、感染対策商品は安定して売れている。一般商品では夏の猛暑の影響によりスポットクーラー等、暑さ対策商品販売増により、昨年の約2倍の売上となった。仕入に関しては、ウッドショック、半導体の影響により値上げが一部発生。今後については引き続き業者向け商品の販売はある程度見込められる。一般向け商品はコロナの状況によって販促活動の有無が大きく影響すると思われる。ECの拡大によっては、業績低迷に繋がる恐れがある

【サービス業】

- 新規顧客の数が減っている
- 新規事業がようやく展開できる状況になりつつあります。今後の営業に期待します
- B P 関連等、建設工事増に伴う需要増があるものの、仕入れ価格の急騰により、販売価格への転嫁ができず採算の悪化が著しい
- 昨年より微増。コロナの影響は多少ありますが、大きく下がることもなく推移
- 経済活動が下がると消費および生産も連動することから
- 道内来場者は上昇しているが、道外、インバウンド減少状況により単価大幅減
- 新型コロナ禍で、休講となる同業他社の教室が多い中、様々な工夫を施し開講するしたことで優位性ができたことと、今までの取り組みの中で保護者様との良好な関係性が生まれ、紹介をいただけるようになったことが大きかったと考えられます。コロナ禍での対応はコンペチターとの差別化のポイントと考えます
- 開設より丸2年、徐々に経営も軌道に乗ってきました
- 営業活動ができないので厳しい

- ワクチンを打つと事業所の稼働が回復すると見ていたが回復せず、新規が入ってこないのが悪化している
- まん延防止措置や緊急事態宣言の繰り返しが予約状況に影響した
- まだまだコロナウイルスに対して慎重な行動を心がけるお客様が多いようです。外出を控えている、外出をする行事、イベント等が減っている。高齢の方は体調を崩しているように感じます
- 業界によって影響の受け方は違うと思いますが、平素からの取引先との関わり方が明暗を分けている部分もあるかと思っています。今後はコロナ禍後を見据えての業態転換を余儀なくされる業界が多くなっていくと感じています
- 新型コロナに関する影響はなし
- コロナの影響大
- 飲食業への機器販売が主。元請け取引からの受注が減少。小型店舗（飲食）の休業等
- 春頃よりも少しずつ客足が戻ってきたことと、新規顧客の増加により売上も増加した。年末は繁忙期になってほしい願望がある
- コロナ禍におけるこの約2年間は、自社による経営努力の結果大きな業況悪化は逃れているが、正直言って支援策に対しての不満、不公平感は否めない。他業種でもそうだと思うが、小さな業況悪化とコスト増が2年続くとボディーブローのように苦しくなってくる。ウィズコロナ、アフターコロナで今後、北広島市はボールパークと西口再開発だけに頼らず、どうしたら市内経済活性化するのかを考え、対話することが必要な気がする
- コロナにより外出される方が少ないのか？飲食店に支援金があっても洗車場に対する支援の対象はないのか？
- 7月以降も、5、6月の土日休業要請の余波で、お客様が営業日を勘違いするなど混乱が生じている感じがあります。8、9月は時短営業の影響あり。10月からは緊急事態宣言の解除でお客様が戻りつつありますが、世界的な原油高騰により当社は重油が不可欠なので、新たな不安材料となっています
- 緊急宣言中ではあったが昨年度とは違い混乱することなく、効率よく事業活動ができたため。昨年同期との比較では、やや回復傾向が見られた

【その他】

- 従業員（営業員）が仕事に慣れてきてスキルアップした
- 緊急事態宣言中で休業した
- コロナのクラスターで12名が陽性。20日間休業した。どこからの補償もなく大変厳しい状況でした
- 緊急事態およびまん延防止が終了した後も時短等制限が続く限り人の動きは少ないままなので、売上には結びつかない
- コロナの影響で来客者の単位が2人前後になる。友人、知人との会食がなく全体的来客数が約4割減になる（従来は4人～6人）